

# 「ながーい、お休みからの『宿題』」

ケアプランの価値 番外編

馬渡 徳子

今年の特別に長いGWを、皆さんはどのように過ごされましたでしょうか。

私は、改めて「ジェンダー」「家族システム」「社会資源」「社会政策」について、考える機会となりました。

私と家族の属する組織は、そもそも日祭日が休業日扱いではなく、1ヶ月を4週8休で業務シフトが組まれている「医療・福祉・介護事業」「サービス」グループと、土日祭日が完全に休業日の「公務労働」「民間企業」グループです。

「子育て世代」には、保育所と学童保育、放課後児童デイサービスが長期間休みであったことから、「どう過ごすか」が、昨年度末からの早急の課題でした。

→おそらく、選択肢は、様々にあったろうと思います。自身と、知人や友人も含めて、「どんな選択をしたか」が、GW前半に、実家である我が家に集まり、夕飯時の話題になったので、以下ご紹介しましょう。

## 「社縁」活用

- ①思い切って、有給休暇をとった。全部休むか、職場内で調整して交代で休んだ。時間休、半日休をとった。あえて、夜勤を組んでもらった。
- ②雇用先が、臨時の保育室を準備し、そこを利用して出勤した。雇用先が進んで準備したところと労働組合で要求し、実現したところがあった。

利用料は無料で、定年後の元保育士に保育を依頼したらしい。そもそも、企業内保育所があり、そこを利用して出勤したというケースもあり、女性の多い職場への福利厚生 の 推 奨 例 として、マスコミで取り上げられていた。が、保育の歴史をふりかえれば、職場併設保育所は、実は古くからある現在でも社会資源の一つとなっている。

### 「血縁」活用

- ③パートナーが異業種なので、子どもはパートナーに預けて、出勤した。
- ④親世代に、子どもを預けて出勤した。居所に来てもらうか、実家に預けに行くかを選んだ。二親であっても、遠方の実家に、一方の親だけで子どもと共に帰省したケースもあった。

さて、子世代の結婚と出産年齢の個別性・高年齢化傾向により、親世代にとっては、同時に介護・被介護者世代でもあることから、③のニーズに、応えられたのだろうか。

### 「知縁」「地縁」活用

- ⑤友人(ママ友)とお互いの家で、子どもを交代で保育し合い、二家族で夕食も共にした。
- ⑥友人(パパ友)のつながりで、三世帯がオートキャンプ場で過ごし、仕事のあるママは出勤、夜、合流した。
- ⑦地域の子ども食堂を併設している無認可保育所や、学童保育を保護者会で臨時開設し、子どもを預けて出勤した。 ←他県の例
- ⑦信仰している宗教の組織や、つな

がりを活用したケースは、たまたまなかった。

さて、GW中には、マスコミ報道は平成の時代をふりかえる番組が、圧倒的に多く見受けられました。

大規模自然災害、センセーショナルな事件を取り上げた報道も多く、胸がつまされる思いがしました。

私自身は、2014年夏に、実家が大水害で被災した経験があります。その際は、結果として、伝統的な地域の支え合いのしくみ「講(こう)」が冠婚葬祭以外でも奏功し、管轄の地域包括支援センターや地域役員とともに、安否確認、避難誘導、被災証明・損害補償請求手続き支援にと活躍されていました。地域に根差した「お寺」(認知症とともに生きた亡父を応援して下さった寺)や、幼稚園を併設し、お習い事や一時保育、障がいのある子どもの保育も、長く実施していた別のお寺も、お寺を開放し、両方の仏教婦人会が積極的に被災者の支援されていたことも、印象に残っています。

当時、出身地・ふるさとの様々な人的・物的社会資源の「あるある」を改めて発見し、遠く離れていてもとても安心して帰宅することができました。

今春、実家を訪れた折に、「講」のしくみが、とうとうなくなった、と聞きました。また、少子化のために、お寺が幼稚園を閉園したと聞き、卒園児でもあることから、アルバムを観ながら、仏教婦人会で活動していた母と、「懐かしいね。さみしいね。お世話になったよね。」と話をしました。

国際的な公的調査機関の経年的な統計調査によると、日本は「孤立化の進行」と「家族以外の自分の属する組織・地域・社会に対する信頼感の低下」が諸外国と比して、特徴的であることを、公共社会学の講義で学びました。「個人と家族のありようの多様化」と、「血縁、知縁、社縁、地縁の希薄化」という現実を、どの様に捉えるのか。そして、「誰もが排除されることのないしくみ」をつくるためには、どのようなプロセスを経ることが、多様な世代の住民を主体とする地域づくりとなっていくのか、国と各自治体の課題となっていることに、改めて気付くことができました。

そして、それは「我がこと」でもあります。「自分の役割」「自分と家族」「自分と友人・知人」「自分と職場」「自分と地域」「自分と自治体」「自分と出身地・ふるさと」「社会政策」・・・に、ついても、「今をふりかえり、これからのことを考える機会」ともなりました。

10年目を迎えられたという『対人援助学マガジン』。ここにも、居場所があることに救われたことも、ありました。ここで出逢い、「私も、そうでした」と、お声をかけて頂いた方々。必ずコメントをLINEで送って下さる友だち。参画してこられた皆様方に心より敬意と深謝申し上げます。

自分を大切に  
まわりの人を大切に  
お互いを大切にし合えるしくみ  
を、つくっていきましょう

出典「人権の絵本」大月書店